

農業経験ゼロ。

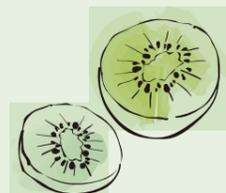
大阪出身の2人が普通寺市でキウイ農家に



やまだ ゆい か
山田 唯可さん(左)

ふかい むの り
深井 稔さん(右)

吉原地区でキウイ農家として働いている山田さんと深井さん。従事者の高齢化や後継者不足問題が深刻な農業に、新しい風を吹き込む2人にキウイ農家転身のきっかけや取り組みを伺いました。



次世代の担い手として



「将来を考えて

「70代のじいちゃんたちでもできてるし、俺らでも農業ならできるんじゃない?」

都会でのサラリーマン生活で夢を持てなかった山田さんと深井さんは、将来を考える上で漠然と「農業」に興味を持つようになっていました。実家が農家ではない2人。今思えば、おじいちゃんが農協の職員で、家に農機具などもあったので、農家のイメージがしやすかったかもしれないと話す深井さん。ところが、高校の同級生2人が、飲み会で語った会話が実現するまでには、多くの苦悩がありました。

「ぶつかった多くの壁

除々に農業の方向性が見え、将来やりたいことが明確になり、勤めていた会社を退職。脱サラ後、当初は地元関西圏内で農産物の収穫体験ができる観光農園を目指していましたが、品目は「ブドウ」。理由は、思い描く観光農園のイメージがしやすかったからようです。

「挑戦し続けるキウイ農家

師匠である島田さんから生産方法や技術、農家になる大変さ、厳しさを教わり、農業経験ゼロだった2人は、今では3.5haの耕作地でキウイを生産しています。

2人に今後のビジョンを伺うと、「将来こうなりたい!」とはあまり考えないようにしているとのこと。山田さんは、「軸をキウイに定め、ぼやっとしたイメージで動く。あえて遊び部分を作ることで、変わりつつある時代にもついていきたい。NFT(非代替性

しかし現実には甘くなく、役場で就農の情報収集や農家に訪問するも、なかなかうまく進まない毎日。農業経験や知識もない若者が、突然農家さんを訪問しても怪しまれるだけで、門前払いの日々だったようです。「やっぱりダメなのかな。」

大阪から香川へ移住

県内初の「地域おこし協力隊」

そんな日々の中、転機が訪れたのは、大阪で開かれた農業人フェアに参加したときでした。出展していた普通寺市のブースで(有)キウイバードコーポレーションの島田満沖さんと出会い、熱心にキウイについて説明を受けました。

ブドウではないが、キウイも同じ棚果樹の果物。初めて「香料こうじ」を見せてもらったときにも衝撃が走り、「え、こんなキウイあるんだ。これはおもしろいかも!」と感じ、すぐに地域おこし協力隊の制度を活用し、香川県でキウイ農家として就農、修行のため普通寺市へ移住しました。(香川県内初の地域おこし協力隊として就任。)



規格外の果実をどう販売するか「クラウドファンディング*」にも挑戦



生育過程で大きくなりすぎた「さぬきキウイっこ®」は、そのままでは売れず、加工品としての用途しかない状態でした。2人は、大きくても売れる方法を探するため、「クラウドファンディング」に挑戦しました。直接、消費者においしさを説明し、理解してもらった上で購入してもらう新しい販売方法は大盛況。規格外だった果実も即日完売し、一番の目的でもあったキウイのおいしさと認知度を高めることに成功しました。

トークン)とか、メタバース(仮想空間)でキウイが売れたらおもしろいですよね。」と、目を輝かせながら明るい口調で未来を語ってくれました。今までのない発想で業界を支えるキウイ農家として、2人の挑戦はこれからもまだまだ続いていきます。

*インターネットを通して自分の活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募るしくみです。